

有宵会だより

第59号
発行所
特定非営利活動法人
岳易館・有宵会
編集 広報部
松戸市新松戸1-64

九星と易断による

十月・十一月の運勢

気学では戌十月

十月八日(寒露)節入り

天道		
2	7	9
1	3	5
6	8	4
生氣		

破ア

気学では亥十一月

十一月七日(立冬)節入り

破		
1	6	8
9	2	4
5	7	3
天道		

天道



一白水星の人の運勢

十月筮一水山蹇の初六

十一月筮一離為火の初九
諸事にわたり意外の変事があるので慎重に。強気に出ると裏目に展開して不利。現状維持を守れば安心、相談事は内容が変り金運は欲さず待つ計画は甘くなりがち。足腰、皮膚、身心気疲れる。

十一月は安全策で無理押しをさける。急ぐ用事はつまずきやすい。家庭では対話と愛情表現を待たず。計画事は時機を待たず。風邪を軽くみず、血圧、膝や股、視力に用心。

二黒土星の人の運勢

十月筮一沢風大過の上六
十一月筮一風天小畜上九
好事魔多しという油断せず、小さなことにも手抜きをしない。綺麗なバラにはトゲあり甘い話には乗らないで。仕事と金銭は背伸びをしない堅実専一。健康面は気疲れ、胃炎、筋肉痛、泌尿対処。

十一月は公私に雑務多く慌ただし。新規案は頭打ちなので延ばすこと。家庭と愛情は一本の絆で結ぶ、心の怒りは外に出さない賢こさ。気の鬱積肩凝り、動悸など養生。

三碧木星の人の運勢

十月筮一地沢臨の九二

十一月筮一風火家人上九
目的に向け突っ走りやすいが冷静に判断。本業一番でいく。情報不足から不利招く。私用の会話は冗談の中に真実がにじむ。各種用事は相手に合わせ吉。出費節減。気疲れ、寝不足、胃腸の不調。

十一月は穏やかに過ごす気楽さが大切。仕事は溜る気で追われるが要領よく処理。金銭は財布のヒモを締め生活のリズムを守る。体調は順調、消化力、腰疲れと精力消耗。

四緑木星の人の運勢

十月筮一天沢履の上九

十一月筮一沢火革の九四
自分のペースで歩み実

力を発揮、小事にこだわらず大局を学ぶ。愛すればこそその思いやりで異性人気があツプ。味覚の秋の食卓に笑顔、身近な所に喜びあり。気管とせき、風邪、頭重く解消へ。

十一月は完璧を求めずより八分目で吉。家庭内の問題は停滞気味で焦らずに。交際面は常識とマナーを忘れない。小遣いは上手に活用。体調は良好でも風邪、足腰の対策。

五黄土星の人の運勢

十月筮一沢火革の九五

十一月筮一風沢中孚六三
運気は気配りで功を表わす。キーワードは先々見越し改善吉。目立たぬ陰の努力が評価される。何気ない言葉が相手を傷つける口は慎重に。十月下旬に好機あり。口腔、血流、足腰膝、皮膚留意。

十一月は旧弊を直して新たな道順を選ぶ。思案するより実行してみたい。詰らぬ意地張ると窮屈さに縛られそう。協力と支援者あり。睡眠、節々の疲れ、打撲など足元注意。

六白金星の人の運勢

十月筮一天火同人九五

十一月筮一天火同人九五

小事に吉とはいえ大事は条件がそろわず。精神面を生かす事柄は良好。個性を生かし技能を伸ばすのは有益です。情は人のためならず信頼関係を深める、金銭出超。既往歯痛、肩凝り、筋痛など。

七赤金星の人の運勢

十月筮一震為雷の九四

十一月筮一雷地予の六三
多事多忙、調子に乗らず公私の脇を固める。懸案材料は善処と改善が必要。仕事や金銭は旧を守り新策は骨折損で実なし。不注意からミスにつながり早目対応。運動不足、視力、気管に用心を。

十一月の運気はゆっくり慎重さで安心。何事も焦りは禁物、家庭サービ入愛の心遣いで円満に。秋の夜長に読書の楽しみと思案の心。疲労回復、風邪対策の養生方針で。

八白土星の人の運勢

十月筮一風地觀の六四

十一月筮一沢天夫の九五
転ばぬ先の杖を身に付ける。何事も気をつければ安全日。交際には柔軟態度、目下には公平に接して人望が高まる。金運は策に走らずに修理復調は良い。まず足元に注意ストレスと持病の解消を。

九紫火星の人の運勢

十月筮一雷風恒の九三

十一月筮一火風鼎の九二
ようやく平穏ムードへのんびり過ごしてみたい。旧友や実家の交わりが楽しく隣人との和を大切に。金銭は内緒の出費あり、予定は中断のため様子見る。血行不順、冷えと不眠、頸頭部の張りに対象。十一月は心身の爽快さを求めて吉。明日のため今日を頑張る。人生は持ちつ持たれつ譲り合い。目新しい出会いと朗報を期待、交際費増、グループ交流に成果多し。足元筋肉痛、肩と頭部の違和。

福田 有宵

七月有宵会報告

久保田恵都子

七月二十七日(土)勤労福祉会館ブルミエにてNPO法人岳易館・有宵会定期総会が開催されました。プログラムは、定期総会および福田有宵先生による「易の真髓」についてのご講演です。

第一部 定期総会



平成八年に有宵会が設立されて十七年。その後NPO法人岳易館・有宵会が発足して四年目になりました。総会は、佐藤宗暎先生から開会宣言、牧野有峰先生より開会の辞が述べられ、有宵会の歴史についてお話をいただきました。その後、福田有宵理事長からご挨拶を頂戴し、議事進行となりました。また、各役員より、有宵会活動経過報告並びに会計報告、今年

度の活動計画(案)が報告されました。今回の総会では、準会員を含む出席者六八名から同意が得られた事により、会員数一〇二名の二ノ三以上に

あたる承認を得て、活動計画案は無事成立いたしました。この場を通じてご報告申し上げます。定期総会は、吉田侑加先生の閉会の辞をもって終了いたしました。

第二部 易の真髓

(前談の部)

易は逆数なり

福田 有宵先生

ご講演の前に、今上天皇の右手の写真を掲示され手相のご説明がありましたのでポイントを記載いたします。



手型は尖頭型 末節が長い、これは神秘性をもち直観力がある 食指と無名指が高く非常に寄り添っている 小指は無名指に寄り添って末節が

長い 太陽線が運命線よりも見事に出ています。

これは高貴な方や上流階級の人は先祖からの運命を与えられているという事 感情線は頭脳線に近しいところから出ていて長さはそれ程長くない。これは長い間をかけて態度や顔色を変えないように生きていくものですが、地で行くものがあるのという事です。

初めにお話をしますのは、岳易館・有宵会の名称についてです。岳易館という名前は、現代易学の泰斗といわれる加藤大岳先生の「岳」の字をいただいで「岳易」となりました。初代は直門の四教室が誕生しましたが、現在に至っては二代目の岳易館・有宵会の一つだけとなりました。私は、昭和四〇年に師匠である大熊茅楊先生の門に入り、三〇年近くご指導をいただきました。私と易の関わりは、数えること四八年になります。最初に門を開いたところの占術は、その人に大変縁がありま

す。そして次々と学びたくなり、一人で占術を上手に用いることが出来るか

が重要です。触りだけを習う事は一向に構いませんが、一つの道を究めるという事は、その精神を持ち続けていないと出来ないことです。二つ、三つと占法を覚えようと方針に食い違いが出てきます。この場合の占法はよい、これはいけないと日常茶飯事に葛藤が生じます。その結果、皆さんは都合よく解釈するようになり、一般的に女性の方が男性より欲があります。寝る時には「意欲がある」と称え、注意をする時は「欲深い」と諭すようにします。

【命・ト・相 について】

各占法は、「命・ト・相」に分類されます。易は「ト」の分野に入り、筋書きがなくそれを作るのは筮者である我々になるのです。それが自分に合い、好むかにもよりますが、性質はそれぞれに違いがありますので、「学んで精進したい」「この方法を生涯通したい」と決めていきますと真剣になります。ご婦人の場合は「命」を好みます。「命」は、生年月日で内

容・答えが決まっています。命式はある程度答えが出ていますから、後は皆さんの技量次第でどれだけの奥行きが出せるかが鍵になります。「命」に確定したものとすると確信を持てる人は、「命」の命式を学ぶ必要があります。一方「ト」は、古の時代に「龜ト」と言いました。中国の四〇〇〇年 五〇〇〇年頃から、龜を炊き腹甲の縦横の割れ目を見て未来の吉凶を判断していたのです。この割れ目が「ト」の字の基になっています。「ト」の特徴は、易占を始め偶然性に委ねるものがあります。また、占いという字は、トと口との合字です。占いは吉凶を見て判断するものです。占術という文字は、春秋時代の『後漢書』に記されています。文公(紀元前六九七年 六二八年)は、紀元前七〇〇年位前となる春秋時代には『占いの書』『占書あり』と記しました。「ト」の次に易があり、さらに卦へと続きま

す。卦は「ウラカタ」と読み、見えない部分は全て裏であるという考え方になります。ト占とは、

書経の中に書かれています。日本では、律令制度時代の中央最高官庁にト占をする立場となる、「占部さん」というト占の官職があったのです。

【夏・殷・周時代の易】

夏の時代 連山易(艮) 紀元前二〇〇〇年 紀元前一六〇〇年(約四〇〇〇年前)。

殷の時代 歸蔵易(坤) 紀元前一六〇〇 紀元前一〇五〇年。

「連山易」「歸蔵易」の二種は文献記録がなく不詳です。後に周の時代となり、現在我々が用いている周易が確立されていきます。艮と坤がその当時の文化として必要であり、生活のために占いというものが生まれたのです。そして、三才といわれる天・人・地、それぞれの様子をみることで生きていく上では必要だったのです。では、必要なものとは何でしょうか。示されたものを探るところに易の存在価値があり、易ならではの答えが出なければならぬのです。なお、易は、周易と断易の二種類に分かれますが、本体は周易になります。

夏の時代 連山易(艮) 紀元前二〇〇〇年 紀元前一六〇〇年(約四〇〇〇年前)。

易が周易と言われる所以は、周の時代二五〇〇三〇〇年位に集大成され、完成したという背景からきています。断易は干支易と言つて干支を主とした易の判断になりますので、周易とはだいぶ内容が違います。易は動くもの、運命を見た場合、動くものと静との二通りの流れについて理解する必要があります。

【易の真髄とは】

易の真髄は、「易は逆数なり」ということです。易経の中の繫辞伝で、「易は逆数なり」とズバリ言っています。順数とは言いませんが、対になる言葉で、これは過去を表し、順序よく過ぎて来たものを示します。逆数は、未来を見る。他の占法では、具体的なものまでは出しません。しかし、易の分野なら自由自在に本題に取り組む事が出来ます。好きな様に答えも出せる。しかし、間違えたら大変ですね。そういう意味では、うるさく言われる部分です。筮者は中立中庸でなければならぬので日頃から修行をして身を修めていくと卦を読む場合に自分に合っ

た読み方が出来るようになります。他の占法は、必然性のある程度持つて論理的に答えを出していきませんが、易の場合は未来を見ると言う、もう少し幅が広い考え方になります。

【病・貧・争と帰納法】

相談を受けた場合は、専門分野の言葉ではなく、日頃から簡単に答えられるよう訓練をしてください。この手法は、帰納法といい、ズバリ答えを先に出す方法です。修練を要しますが、こうなればこうすると、はつきり言うようにします。相談事は、常に「病・貧・争」にあり、この問題に尽きます。病は病氣、貧は経済、金銭、争は親子、夫婦等の葛藤。これらの問題は煩惱といわれ、他の表現では生老病死、苦悩となる要素です。自らの占断が中ずるかは自分を磨く以外に方法はがなく、厳しさがありません。一九世紀にロシアのフリーチエという人が、「人生は学校である。そこで、幸福より不孝の

方がよい教師である。」と説いています。この格言は、皮肉めいたものがあります。易はどこまで分かるのか。また、どのように易を用いたらよいのかについて、私たち筮者は常々問題を突き付けられているのです。

【文字に秘められた法則】

易の真髄は、文字にも秘められています。研究材料のために、色々な文字や熟語の字画を調べてその画数を取り上げてください。「運」は一六画、「命」は八画、「学」は一六画。「運命学」総画四〇画。文字に秘められた字義がその画数に表れ、一定の法則を見出すことができます。易の真髄は、逆数であること。それが急所であり、奥義といわれる所以です。では、「真髄」の画数はどうでしょうか。真は一〇画、隄は二三画。「真髄」総画三三画。シンズイにも三種類があります。人の力を用いた易などの場合は、真実の真髄と書きます。神から頂く答え、神示は、

神髄(神は一〇画)、事を中心を示す心棒の心髄(心は四画)。文字や画数に秘められている法則を研究してください。その他、数の法則では、カバラの数霊などからも読み取る手法があります。

【易の真髄(後談の部)】

筮・卦・占

後談の真髄は、「筮・卦・占」についてです。本日は、皆さんがどのような気持ちで有宵会においでくださるだろうかと、私なりに卦を取って参りました。沢地萃 九四。得卦から、「相当受け入れていただけろ」、「問題にしてくれる」という結果が出ておりましたので、有り難い気持ちでおりました。易は、まず筮竹を持つ。次に筮を取り、卦が出ます。卦が出たら読みとっていきます。読むとは、占つということ。また、真剣に取り組むことを神妙といえます。卦が出る事を偶然とし、占う事を必然と定義します。一方、気学は、自身の家から此方を見て、日の方角から生じる結果がどう

であろうか、という答えの出し方をします。しかし方角は、あくまで一人の問題となるため、全体としての流れを捉える事ができません。これに対して易は、卦を操作することにより、事象の内心まで覗き見ることが出来ます。易はここに特徴があります。「筮・卦・占」は、これが心髄です。では、筮を立てる仕組みの中で、本当に必然に結びつく答えを出しているでしょうか。その境地が磨かれていないと卦に繋がりません。卦の読みは人為的なことであり、ある時全く当たらなくなり、その壁を五回、一〇回、二〇回と経て修練を積み重ねなければなりません。他の占法では、きちんとした攻略法があり、棒があるので答えを外しません。易は的を外すと「当たるも八卦、当たらぬも八卦」と皮肉めいた言われ方をされます。しかし、上手になればそれは克服できます。答えが当たらないのは読み筋が悪く、他の答えを出しているのです。この点をしっかりと認識し、身に付けるようにすれば的中

するようになります。ズバリ！心髄をよむ昔は、口伝という方法が主でしたので、書き付けはあまりありませんでした。そのため、私は実際の占例からお話をいたします。

【占例一】

相談者 八五歳位の男性・占的 手術がどのような結果になるか・得卦 坤為地 六三「足の脹脛の静脈が張る。静脈瘤の状態で歩きづら。この静脈を手術したいが医者からは危ない場合もあると言われ、人を集めて置いた方がよいか？」との相談です。手術は、決定しているのに、占的は、どのような様子、結果になるか。得卦は、坤為地の六三。卦辞爻辞は、「牝馬の貞に利し。先んずれば迷う。」とあります。ほとんど先に進めば迷う。後れば主を得るので、坤為地の場合は少しゆっくりするといふ内容になります。坤為地の卦には、厳しい被害に合ったり、失敗・後遺症が残ったりすることはありませぬ。今回、相談者は手術の結果が知りたいので、「血管の通りはよい。だ

が、脹脛の下肢の部分の血流が弱い。これは主に心臓疾患からくる可能性もあるが、命の心配はなく、手術は比較的平穩にいく。旨を伝えます。

注意すべきは、三爻が問題点と見て、膝から足首の中間部分に痞えている症状があることを読み取ります。之卦は地山謙です。謙は、血滯という見方があり、血液が流れない状態を示します。しかし、手術は大丈夫なので、兄弟などを集める必要はありません。なお、坤の状態は、慢性のものであり、三爻を三ヶ月位前から読み、この頃に具合が悪くなり、歩行が困難になってきたと判断します。坤は腰に力が入らず、力を入れようとすると膝が落ちてしまふ。膝が落ちると歩けなくなつてしまふ状態になります。足首がしっかりと張つていないのでグンニヤリしてしまふ。このような表現の仕方を覚えて貰いたいと思います。

【占例二】

相談者 八三歳ご婦人

・占的 どれだけ生きられるか。

・得卦 地沢臨 初九

高年齢になれば誰でも寿命についての意識はあるのではないのでしょうか。得卦は、地沢臨の初九。之卦は、地水師。

命式の場合は、命数を調べます。易の場合は、どんな状況であるかを聞き取ります。足腰や持病等、この人の場合は足腰に気を付ける程度で持病はありません。このように卦の上で決めていきます。相手に伝える時には、「しっかりと書いています。まだまだです。すぐにお迎えは来ません。」など、一般的な会話も必要になります。この人がどのようにトです。「いつまでか」より、「どう対処できるか」ということがこの卦の真髄なのです。地沢臨は大変勢いがあり、元氣です。まだまだ、という氣持ちも表しています。本人は相談をしてはいるものの、内心そうは思っていない。このような点を見抜けるかが、易に対する我々の技量なのです。臨は、のぞむであり、感臨とも言います。幕末の時代に勝海舟が『感臨丸』という船でアメリカに渡りましたが、当時の

【占例三】

相談者 息子

・占的 父親の体はどうか。

・得卦 水沢節 初九

船は臨卦から名前がつけられたのです。このご婦人は、地沢臨という生命力のある卦をいただいてるので、これから先がどうかより、習いたいものがあつたのです。臨は動くこと、運動です。「最近、よく歩いていきますね。」と会話の中で先回りをしていきます。また、大震の卦で音楽も意味します。一人、二人という連れもあり、初爻、二爻の連れは友人や隣人とみて、その人達に救われると解釈します。震は若さがあり、老けていません。しかし、元氣があり過ぎる時には注意も必要になります。ここが肝心要です。臨は外へ出る所という意味から、玄関を綺麗にする。門の所で躓き易くなるので注意を促します。

やっているようですが、父親はそれを承知していてもまだ介入しない。財産、遺産があると後の人は変わっていきます。得卦は、水沢節の初九。之卦は坎為水。水沢節もまだ体の心配はありません。生きるか死ぬかの心配はないが、部分的には大分体を痛めていることが分かります。水沢節は、節々を表します。背骨や腰痛など関節系統が痛いと言います。「節」で父親は節々が痛いために口数が多く、愚痴が出る人、大したことではないのに痛いと言つた人である、と読んでいきます。また、「節」は、比較的常識を弁えていて、必要なことは言つてもそれ以外のことは言わない人です。また、「節」で食生活は上手な食べ方をしていることがわかりました。ケジメをつけたいから父親のタイプを読み取ります。交易生卦という組み合わせの方法で見えていきますと、三五年前からこの家では問題が出ています。以前は「節」の五爻が三爻のところにあつて、地天泰が示す平

【占例四】

相談者 テニスのプロコーチをしてる男性

・占的 テニスインド大会での成績について

・得卦 水風井 九五

和で仲の良かった状態から、五爻に動いた爻が良を作り、新たな財産の問題を生じさせたのです。まだ生命の心配はないのですが、いつ頃財産の問題が出るかを見ますと、五爻の五年位先に体の不調が始まるとみて、財産問題も併せ持つであろうと話しました。このような相談が父親からであれば、「遺言書やその他のもので対応しなさい。後々揉めたりして親として辛いですよ。遺言書を書いておきなさい。」などのアドバイスが出来るのですが、今回は子供からの相談のため、子供の立場で全体の流れについて答えを出してあげる必要があります。水沢節は、実益や必要性のものという意味もあります。必要なものだけいただき、欲を出してはいけない。姉弟二人だけの問題ではなく、もう一人出て来る。三人で分けなければならぬと卦が教えている旨を伝えました。外へ出ている人がいる(外卦の一陽爻)。時には、北方位か東北方位に居住している人で年齢が少し高い人と分析をして先々の注意を与えま

す。これが易の神妙なところであり、他の占法では出来ないところなのです。

【占例五】

相談者 テニスのプロコーチをしてる男性

・占的 テニスインド大会での成績について

・得卦 水風井 九五

一〇代後半の少女でテニスの選手。国内トーナメントでも優秀で八月一日、九月二日までインドでトーナメントの大会があるとの相談です。この場合は、当然方角などの調べも必要になるでしょうが、私の場合は、それよりも予定が決まった時に参加してどれくらい成績が取れるかを見ていきます。試合の成績はどうかについての得卦は、水風井の九五。

之卦は、地風升。「井」は、井戸の姿を表します。井戸は定着しているものであり、人がそこへ行く。ということ、そこへ行きなさいという答えになります。また、「井」は、釣瓶を上げ下げするところから、繰り返す、練習することを意味します。内卦の水は汚れていて駄目なのですが、

外卦へ行くと水が綺麗になり、五爻のところでは水が美味しい状態です。このことから、その場所でどんな伸びていく、五爻の位から実力を持っていると判断します。優勝はしません、準優勝かその辺りは得られると見ます。水風井は水、体調面も水分を上手に取らないといけません。インドは暑い場所ですから、頭が熱くなり、少し血圧が変わります。目眩が起

るので熱中症にも注意する。一方で、水風井で頭の熱を下げていきますので気温の心配はなく、逆に一定しているでしょう。二・三・五爻の陽爻から三回戦までは行くと判断しました。

【占例五】



相談者 昭和三年生まれ 八五歳の婦人
・ 占的 乳がんの手術の

可否。

・ 得卦 坤為地 上六
昭和三年生まれで八五歳のご婦人で、ご主人は亡くなられて一人です。得卦は、坤為地の上六。之卦は、山地剝。

現在の医学は高年齢でも手術をして前向きにいくという考え方です。この人が癌ありと言われたのは、どういう訳であろうかという問題があります。結論として、手術はしなくてもよいと判断しました。この方は、(福田先生の)古い教室の生徒さんで三〇年の付き合いがある方です。以前に脳腫瘍で手術をしましたが、その後、約二〇年以上も生きておられます。得卦で最初に山地剝が出た場合は、上爻の一陽爻が病気の巢、病根ありと見ます。しかし、まだ坤為地では癌は発生していないと見るのです。この病院は、誤診をしている可能性があります。では、何故乳癌の診断が下ったのか。本人には暫く様子をみるように伝えました。卦を上部と下部で見ると乳房の上の方に左側の方である。その位置を探って確かめる。体が部

分的に変わる時期の二、三ヶ月後に他の病院にも行って調べてもらうこと。気学の場合でも、三という数が基本です。変化を重視した判断をします。今回の診断では、山地剝に変わる部分に疑いを持たれたのです。医師に画像を見せてもらい、癌が上の部という指摘があればもう少し詳しく調べてもらおうようにします。もし、中央や下の方の癌であるとの診断であれば、最初の病院の判断は間違っていないでしょう。

易断とは、このように答えを出すことです。言い切れるか大事であり、責任も大きいのです。坤為地の時は、「この人はハッキリしない」、「どうしてよいか分からない」という状態を卦が示しています。故に、積極的に手術をしたいという訳ではない。では、何であろうか。卦の上だけで判断するのは、易は六四卦あり、人生の縮図なのです。また、初心者には真剣にまじめにやるから確実な答えを出せるのですが、上手になると答えが外れてしまう。自分勝手な読みが出てくるからです。こ

れを戒めてください。スラスラと答えを出してしまつと危険なものがありません。出した答えを学習し、それが修行できれば必ず易の真髄に達することが出来ます。易の真髄とは、「易は逆数なり」ということ。得卦が示す物事や、変化の相を捉える読卦法なのです。

・ 卦と占は、平易に読む。
・ 得卦を信ずること。
・ 平凡な中に真理あり

福田先生による易の真髄のご講演は、まさしく沢地萃で興味深く、一芸に秀でる大切さをご教授いただきました。外は厳しい暑さではありましたが、教室の中は実り多いお勉強会となりました。長時間にわたりまして、誠に有り難うございました。

久保田 恵都予



第十二回松戸教室主催 『羽黒・湯殿山 研修旅行』

宮崎 民子



前日の七月八日午後、都周辺は夕立があり雷雨が轟く天候で心配しましたが、九日の当日は快晴。朝一番乗りで松戸駅に着。初めての参加で、心ワクワクしながらバスを待ち七時頃に乗車。座席に座り、ほっとした直後に幹事さんが用意して下さった「おにぎり、お茶」を頂く。美味しい。

一路、出羽に向う。道路の渋滞もなく、途中のサービスエリア安達太良と書いて「あだたら」と読む。ここでガイドさんは智恵子抄の、「東京には空が無いという、阿多多羅山の山の上に 毎日出ている青い空が 智恵子のほんとの空だという」その安達太良山が見える展望台があると面白い 見に行

きました。雲がかぶさつていて、お山は残念ながら見えませんでした。昼食は名高い「白石らーめん」です。「大上」というお店で古い歴史があります。この白石らーめん、特徴あるのは「葛」を入れてつくるのでめんの腰がしっかりするとのこと。そうめんも冷麦の中間の太さで、長さ10センチ程度、延ばす時に油を使用せず葛を代わりに用いるので胃に優しく感じるとのこと。なるほどと興味しました。お店は辰巳の入口で、玄関は東向き奥に向かい南の座敷です。伝統を守つていける建物ですね。との福田先生の言葉を伝えると、お店の方は、初めてそのような事を知りました。一生懸命に料理屋として伝統を汚さぬように商いをしてきたとの事です。一服の後、目的地の湯殿山の奥へ奥へとバスはひた走りに進み、期待が高まっていく気分を感じました。途中で専用の小型バスに乗り換えて、湯殿山へ到着。大鳥居を潜り湯殿山本宮への山道を歩み、初めに上り、そして下り、神社の入口に着き

ました。そこで素足になつて、お被いを受け、人形（ひとがた）を水に流してから、ご神体の湯が流れてくる「磐座」（いわくら）へ。東北方位から上りちよつと素足が滑りながら、足元を見て、ゆつくり一歩ずつ頂上へ。周囲に熱い思いを抱いている森下さんは、湯殿山まで笹竹と算木を用意してお持ちになったその姿に易に命を懸けているような厳しさを感じました。

周りにいた方々が、八面齋など笹具を取り出し頂上の石の台の上に置きました。その数は十七二十にもなりました。

福田先生が北に向つて修験道方式の祝詞を奏上して合掌。それから曇り空から太陽が西から突然出て光を射しました。その時大空の西北方位から一羽の鳶が飛んで行き、戻ってきたときは二羽となつて頭上を越していきましました。大きな弧を描きながら、ゆつたりと舞っている姿に悠々と大きな気持になりました。出発時間が来てしまったので、本宮でのお水取りは出来ず大鳥居のそばで急いで「ご神水」を頂いてきま

した。帰宅後いただいた「ご神水」は、まるやかで美味しく感じました。東北地方に多いと言われる即身仏にお会いする為「南岳寺」で拝観。即身仏「鉄竜海上人」の説明を受けました。

秋田県生まれ、湯殿山注蓮寺末寺に入り得度。盛岡市の連正寺住職をしていたが近火のあおりを受け、同寺が類焼した為南岳寺に戻つたといわれる。弘法大師の「入定留身して後世の人々を濟度せん」との誓願のもとに、湯殿山仙人沢に山籠。仙人沢行人小屋から湯殿山の御宝前との間は沢渡り

とはいえ、上りで一時間下りならば四十分位で歩ける距離。鉄竜海上人もいかなる誘惑や、おどしにも屈せず、ひたすら修行に打ち込み、靈感にうたれたり神がかりの状態になることもしばしばあったとの事。食事はソバ粉ばかり食べていたと言われるが、ソバ粉だけでは一千日にわたる山籠修行は続けられない。比叡山三千日行者の木食僧は、穀食はせず すり鉢でよくすりつぶしたクルミやゴマを砂糖と共にソバ粉

に混ぜて食べていた。もちろん味噌汁や漬け物、野菜のてんぷら、豆腐、油揚げ、がんもどきのような物も食していたそうです。山籠を終えた行人は師匠寺に帰り秋から春にかけては、信徒地域を回つて講中を結んだり、札を配つたり、祈祷に依りたり家相を観たり、八卦占いをしていたそうです。鉄竜海上人も五穀、十穀断ちし、明治十四年六十二才で入寂されました。日本のミイラで内臓除去の手術を施したことがはつきりしているのは、鉄竜海上人だけだそうです。生前の手型が残されていましたが、男性にしては小さく、小柄で身長は一六一センチ、血液型はA型といわれています。今の即身仏のお姿は、小さくおなりでした。ミイラを想像し、気持ち悪い感じがするかしらと想っていました

が、とても尊い感じに感動しました、今日の行程は此処までで、宿泊先「いさごや」に着。夕食時は各々自慢の喉を披露して下さり、幹事さんは衣装、振り付けを考えて踊つたり歌つたり気合パツチリ。途中で

隣のグループの5才位の男の子が駆け出してきて飛び入り参加で一緒に踊るなど、時間を忘れる程の楽しさでした。二日目、朝八時二十分出発。これから目指すは羽黒山。四月からがスキーシーズンと聞いてびっくり、残雪があるのでですね。創建は平将門と伝えられる東北最古の五重塔は、どつしりと木々の間にすばらしく、堂々とした五重塔でした。全員が相当の距離を歩きましたね。皆様お疲れさまでした。次は山頂までバスで行き、赤鳥居をくぐつて神橋を渡り、途中に古木の爺杉（ジイスキ）があり、手をかざすと距離が少し有るにもかかわらず、手のひらがビリビリとしてきました。長い歳月を世も人も何を見てきたのだからかと思いを馳せるひとときでした。三神合祭殿は、向つて中央が月山神社、左が湯殿山神社、右が出羽神社、屋根は厚い所で二メートルもある茅葺き屋根でした。無事お参りができて、安心いたしました。昼食会場に向うバスの中、私事ですすが普段お参りにいく

と、左肩左足が痛くなるのに、今回は両肩、首が非常に重痛く、みぞおち辺りまで痛みだして、久しぶりの車酔いかと思いましたが、塗香を用いた少し治まりました。この痛みは何のお知らせをして下さったのか、神示は未だにわかりませんが、最後のお参りは慈恩寺。桜門形式の八脚門（柱が八本ある門）の山門を通り本堂へ。天井には中央に龍、左右に三枚ずつ天女が描かれていた。特別公開中で秘仏のご本尊の弥勒五尊像などを拝観することができて、とても幸せでした。印象的だったのは、床上の大きな鉢の中に下を向いて頭を入れ、お願い事をするとボケ防止になるといふ事です。勿論やらせて頂きました。誰方も効き目があるといいですね。もう少し各々の所で時間的にゆとりが有るとよかったです

思いました、このように遠くまで来ているので、仕方のない事でしょう。後は長い道中を帰るのみですが、車中で「きままる」のビデオを見させてもらい、皆さん可らしいやら、その通

りねと納得したり、気分も軽くなりました。天候も帰りのバスの中で雨に遭いましたが、やはり福田先生とご一緒の時は、雨に遭わないというジンクスは守られたと感じられた二日間でした。福田先生をはじめ、色々な所に気遣いが感じられる幹事さんたちは、とても大変だったと思います。ほんとうに、ご苦労さまでした。参加させて頂いたことに感謝しております。ありがとうございました。

合掌
宮崎 民子
今回の旅行には、二年置きの待ちに待った、松戸教室、十二回目の旅行（七月九日、十日）と相成りました。福田先生を初めとして



山形、出羽二山をめぐる旅

小椋 のり子

今回の旅行には、二年置き

総勢四十三名を乗せたバスは、一路、出羽三山の一つ、湯殿山へ向かい、車中、福田先生の御説明も心地良く、ひたすら走りつづけます。途中、宮城県白石「大上」にて昼食。温麺（らーめん）を頂きました。夏場だからでしょうか、冷たい麺をごまだれ、くるみだれ、しょうゆだれの三種のたれで、頂きました。昔ながらの素朴な味わいでした。

現、天皇、皇后両陛下、皇太子殿下、秋篠宮殿下もお立ち寄りになられたとのことでした。店主のお話に寄りますと、この温麺（らーめん）は、孝行息子が、病弱な父のため研究を重ね、油を一滴も使わずにつくり上げ、温麺としたということでした。その評判が、世に知れ渡り欲しい人が殺到し、製造が間に合わなかったそうです。その後、藩に登用され、召し抱えられたようである。

さて、松戸を、朝、七時三十分に出発してから、渋滞にも合わず、順調な旅が続いています。十五時三十分頃、湯殿山神社に到着。湯殿山行き

のバスに、乗り換え、十五時四十五分頃、初日の目的地、湯殿山に到着。御身体まで、急な坂道を下ること五、六分。山肌より、温泉が出ているため、ここは、社殿がなく、温泉そのものが、本尊である。大日如来の垂迹（神）であり、大山祇神（おおやまつみのかみ）、大己貴命（おおなむちのみこと）、少彦名命（すくなひこなのみこと）を祀っている。その御神体は、熱い温泉が湧き出る、黄褐色の巨岩である。ここは、人間が、手をかけてはならない場所とされ、拜殿も社殿もない。御神体を、参拝するには、裸足になり、お袂いを、受けてからでないと、お祀りは許されないものである。私達も、裸足になり、お袂いを受けた後、小さな鳥居をくぐり、坂道を、少し下ったところ、目の前に、御神体がありまして。山肌は、流れ落ちるお湯で、熱く、手すりにつかまりながら、登りま

したが、まさに、足湯状態でした。標高千五百四メートルの湯殿山の中腹、梵字川のほとりに鎮座する湯殿山神社は、出羽三

山（羽黒山、月山、湯殿山）の奥宮であり三山詣での最終地。朱赤の見事な鳥居は、平成五年、出羽三山、開山、千四百年を、記念して、建立されたものである。修験者の山駆けは、擬死再生の修行ではあるが、湯殿山神社は、まさに、再生の場所である。生まれ変わりを願う修験者、行者にとつて、湯殿山は、最大の癒しの場である。湯殿山は、即身仏でも知られ、全国に現存する十七体のうち十体が、湯殿山系である。

芭蕉の詠んだ句、「語られぬ、湯殿山に濡らす袂（袂）かな」お参りしても、誰にも、語ってはならない秘所であった。当然、撮影は、禁止である。冬期は、積雪が多いため、閉山され、四月上旬から十一月上旬が、参拝期間となります。予定時間を過ぎていたの

で、湯殿山を、あとにして、急ぎ、南岳寺へと、バスは走る。南岳寺は、湯殿山表口別当であった湯殿山注蓮寺（鉄門海上人安置）の分寺で、湯殿山修業者、行者、信者の祈禱所として、建立され

た。本尊は、大日如来（湯殿山大権現）。開基は、真言宗。開祖は、湯殿山開創、弘法大師、空海と伝えられている。今日まで幾度なく、火災にあつて、縁起書等焼失のため、創建年月は、不詳



昭和三十一年、四月十三日、鶴岡大火災の飛び火により、全焼した。奇跡的に、ご本尊と、即身仏と、別棟の長南（おさなみ）、年恵（としえ）霊堂（後でふれます）だけが、難を免れた。現本堂は、その後、二十年間無住となり、ようやく、昭和四十七年、境内地を、現在地に移転、建立されたものである。庄内地方には、六体の即身仏が、現存しており、そのうちの一体、鉄竜海上人が、安置されているのが、真言宗、湯殿山、智山派の寺、湯殿山、南岳寺である。鉄竜海上人は、十六

歳の時、友人と、けんかをし、ものはずみで、危めてしまい、郷里（秋田）を出奔し、流浪の旅の後、行人としての修業が、始まった。時の住職（天竜海上人）の室に入り、得度し、当寺、または、注蓮寺において、修業し、その後、岩手県、蓮正寺へ、普住したのですが、嘉永年間に、当寺が、焼失したため、再び、当寺にもどり、再建したのである。後の師である（鉄門海上人）が、発願した、加茂坂道路改修工事に際しては、上人が、責任者となり、難工事を、無事、完成したと伝えられている。全国各地を巡錫（各地をめぐり教え、導きを行なつた）、行脚し、衆生済度に勤め、五十五歳に至り、宗祖、弘法大師様の「入定留身して後の世の人々を済度せん」との誓願のもとに、大願を発し、湯殿山、仙人沢に入り、寒暑一枚の白衣に、身を包み、千日（三年三カ月）の山籠り、五穀・十穀の食を断ち、そば粉、百合の球根、木の実、木の芽等の木食行を行い、少しばかりの水で、生活をし、災厄断、

消除等の修行をし七年半、ついに、胎蔵界大日如来のもとに、大願を成就し成仏の時期を悟り、一切の食物を断ち、即身仏となられ、宗祖、弘法大師と同じ、六十二歳にて、明治元年、八月八日、入寂（聖者・僧が、死去すること）したのである。



現在、庄内地方に現存している即身仏六体のうち、四体は、片目がありません。鉄竜海上人には、左目がありません。当時、目の病気が、流行していて、失明されている民衆が、非常に多く、湯殿山行者は、自分の片目をとり、病に悩んでいる方を、救うため、自分の目をとり、犠牲にしようとしたことでした。

南岳寺さんでは、御住職に、お寺の成り立ちを、説明していただき、即身仏「鉄竜海上人」を、目

の前に、皆で、般若心経を唱えてお参りしたのち、ゆつくりと、即身仏を、拝見しましたが、面立ちは、柔らかく、不気味さは、感じられませんでした。心穏やかに、南岳寺をあとにしました。

本日の日程を、無事、終え、今夜の宿、湯の浜温泉「いさごや」に到着。部屋からは日本海が、一望でき、その後の露天風呂でもゆつたりと、海を眺めることが、できました。癒しのひとときでした。

食事ののち、宴会が始まり、皆様の見事な歌声が、続き、松戸教室恒例の、金子幹事による（ステージ衣装も見事）ズンバダンス（実はハワイアンダンスの予定）が、始まり、時のたつのも、忘れるほど、楽しいうちに、お開きとなりました。

二日目は、羽黒山、五重塔へと向かいます。羽黒山の山頂に至る約二キロメートルの参道は、樹齢、三百〜六百年に及ぶ老杉が、生い茂り、石段は全部で、二千四百四十六段に及ぶ一の坂の登り口に、五重塔が、聳え立つ。高さ、二百九十九メートル。

トル。方三間五層、柿葺素木造り、東北では、最古の塔。昭和四十一年、国宝指定。平将門、創建説（正和二年（千三百十三年）があるが、その後幾度なく、修復され、現在の塔は、室町時代前期に、十年の歳月をかけて、建立されたものである。慶長十三年（千六百八年）

最上義光（よしあき）によつて、大修理が、なされている。表参道を登つた杉木立ちの中に、南面して立つ姿は、均整が取れて美しい。その風格に、荘厳さを感じる。現在、出羽三山と言え、羽黒山、月山、湯殿山とされているが、古来は、羽黒山、月山、鳥海山。その後、羽黒山、月山、葉山を、出羽三山と呼んでいた。今から、千四百年

前の推古天皇、第三十二代、崇峻天皇の第一皇子、蜂子皇子が、羽黒山を開かれたのが、出羽三山の始まりである。御祭神は、伊弉波神（いではのかみ）倉稻魂命（うかのみたまのみこと）である。出羽三山は、東北地方最大の山岳信仰の拠点であり、古くから、修験道の聖地として、知られて

いる。山麓から山腹にかけて、院坊山頂に、主要堂宇が、営まれ、その奥に、行場が、設定されていた。院坊は、現在、随神門として残されている。仁王門を境に、そこから下が、妻帯修験。上が、清僧修験というように区分されていた。羽黒山は、厳しい修業で有名な「羽黒派古修験」によつて、「擬死再生」を果たす霊山、霊場として知られている。東、三十三ヶ国はもとより、皇室を初め、歴代の武將の、篤き崇敬により、その地位は確固たるものになった。現在、羽黒山に霊祭殿が存在するが、これは、羽黒山が、本来、祖霊の集まる場所（端山はやま）であったことを示すものである。祖先の

霊魂が、鎮まるお山、生命の糧を司る山の神、海の神が鎮まるお山を、人々から信仰され、その信仰圏は、東日本一円に拡がっていった。

「八方七口」と称される七ヶ所の登拝口には、各々山岳宗教集落が、立地する例は、他に類を見ない。さて、修験道とは、山岳信仰と仏教の密教的信仰とが、合体したもので

ある。修験者は山伏とも呼ばれ、山岳に入り、修行を積み、呪力を体得する。出羽三山が、修験者の道場となったのは、平安時代の末頃である。山上にある鏡池からは、この時代から、江戸時代に及ぶ、六百面近い鏡が、出ている。信者達から、願いを鏡に託され、持参、奉納されたものようである。修験者を支えたのは、末派山伏（里修験）であり、各々の村に、居住し、雨乞い、天気祭り、悪虫駆除等。また五穀豊穡の祈祷、家族、家畜の病氣治癒の祈祷も、行なつた。彼らが、羽黒山の修行で、身に付けたものは、宗教的なものばかりではなく、医学の知識や、生活技術が、含まれていて、里人達の生活には、必要なものばかりであった。里修験は、村人の生活の先達ともなり、精神生活に、大きな影響を与えた。修験、山伏達の活動は、三山を中心として、奥羽、さらに、諸国へと、延びていった。

明治政府の、神仏分離は、公的に抹殺されたが、かろうじて生き残り、復興して来たのである。神仏分離によつて、多くの霊山が、衰退に向かう中、三山は、神の山となり、三山神社として統括され、今尚、広い信仰圏を保持つづけている。月山と湯殿山は、冬期登拝が、困難なため、いにしえより、三山の権見（神仏）を、羽黒山山頂、出羽神社に、合祀し、羽黒三山大権現として、崇めた。権現堂と呼ばれた出羽神社は、度重なる火災に、文政元年（千八百十八年）に、再建されたものである。

明治以降は、三山の神々を、祀ることから三神合祭殿と、名称を変えた。三神合祭殿は、国指定重要文化財であり、萱葺屋根（厚さ二メートル）の権現造りで、日本最大の大きさを誇る、木造建造物である。参拝すれば、三山を、巡つたことになるといふ。

羽黒山・三神合祭殿の巨大さは、多くの行者が、一ヶ所に集つ、山岳修業の形態に、由来するのである。記念の集合写真を受けとり、三神合祭殿をあとにして、バスは、本日の

昼食処、チエリランド寒河江へ、向かう。満腹になり、おみやげの買い物も済ませ、心おきなく、バスにもどり、次の慈恩寺へと向かう。（幹事の太田さんの進言により実現）。

慈恩寺は、平安初期創建（九世紀頃）、法相系の小さな寺院であつたと考えられている。十二世紀初めに、鳥羽上皇の勅願寺となり、出羽南部の中核的寺院のひとつとなつていくのである。この背景には、慈恩寺が位置する寒河江荘が、摂関家領であつたことと、深く関係する。国指定重要文化財の本堂三重塔、薬師堂があり、また、国重要文化財の平安後期の仏像。阿弥陀如来座像（ただしくは釈迦如来座像）。文殊菩薩。普賢菩薩。十羅刹立像等々。歴史ある注目すべき仏像が数多く存在し、膨大な文書群も存在している。「百聞は一見にしかずである」。必見の価値あり。是非一度お出掛けして、「一覽になつて見ては、いかがでしょうか。

前記、南岳寺での火災にあいながらも、奇跡的に

に難を免れた、長南年恵
霊堂の長南年恵本人につ
いて、ふれて見たいと思
います。

バスの中で、福田先生
よりお話があったときに
興味を覚えました。以下、
先生からお借りした資料
により記述。

長南年恵（オサナミト
シエ）（本名・登志恵）
千八百六十三年十二月

六日（文久三年十月二十
六日）山形県鶴岡市生ま
れ。千九百七年十月二十
九日（明治四十年十月二
十九日）満四十三歳にて
没。

明治時代の霊能者・超
能力者で、二十歳までの
記録は不明だが、二十歳
頃からほとんど食事を取
らず、口にするものは生
水程度であったという。
空気中から神水などの様々
なものを取り出すなど、
多くの不思議な現象を起
こしている。成人してか
らも肉体的・精神的に少
女のようにであったとい
う。元々、少食で生水の他は
生のサツマイモを少量の
みであった。排泄物はほ
とんどなく、汗や垢はほ
とんど出ず、風呂に入ら
なくても髪や体はいつも
清潔であったという。

空気中から取り出す神
水は、密封した空の一升
瓶の中に人々の目の前で
満たしたという。この神
水は万病に効くといわれ
た。一八九五年（明治二
十八年）長南年恵は詐欺
行為（神水を用いて医師
の資格なしに病氣治療を
行なったとして）で逮捕
された。

一八九六年（明治二十
九年）二度目の逮捕。一
九〇〇年（明治三十三年）
三度目の逮捕。

度重なる不当な逮捕、
抑圧にもめげず、強く生
きたが、神様からのお迎
えがあり、四十三歳の若
さで、波乱万丈の人生に、
幕を閉じたのです。今回
も、福田先生を初めとし
て、幹事の尽力、バスの
運転手さん、ガイドさん、
参加者の皆様のご協力を
より、事故にも合わず、
無事、終えることが、で
きたことに、改めて感謝。

小 椋 の り 子

合掌



岩槻大師様への参拝
吉田侑加



今年はず想外の酷暑に
見舞われ驚いております。
今後どのくらい厳しい残
暑が続くのか案じていま
す。五黄中宮の変化暗雲
を感じます。

今夏七月二十七日〜八
月四日迄の九日間岩槻大
師様に於いて世界の平和
を願い、大翡翠の宝石で
創られた仏像の展示の御
開帳が執り行なわれまし
た。

福田有宵先生より、お
釈迦様日本展の資料を頂
戴し八月二日に阿部哲子
さんと一緒に尊崇させ
ていただきました。お釈
迦様は本堂の少し右寄り
に台座が設けられ鎮座さ
れておりました。このお
釈迦様は、世界最大の翡
翠で創られています。2
000年カナダの鉱山で
採掘され、2008年に
タイで完成されました。
高さ二・五、重さ四ト

ンもありませう。世界平和
を願い創られた物です。

2009年オーストラ
リア・シドニーで開帳供
養され、世界の国々を巡
り多くの人々の心に平穩
がもたらされるよう祈り
つつ、今年には日本の三か
所、横浜総持寺、岩槻大
師、気仙沼鹿折復興マル
シエにてご開帳の運びと
なりました。この度の岩
槻大師様での、ご開帳に
つきましてはご住職様が
長年にわたりスリランカ
の恵まれない人々に心を
寄せ、学校建立寄付等物
心両面で支えてこられと
事が、同国の仏教徒に感
銘を呼び日本拝観、三か
所の一つに選定されまし
た。拝観させていただきます
たお釈迦様は、大変神々
しく光輝いて見えました。

お釈迦様の右手首から五
色の紐が十本懸っており、
その中の一本を手の平に
包みこみ世界平和を祈っ
てお参り致しました。

NPO法人岳易館・有
宵会では、ご開帳の期間
は三重塔の中の写経剃髮
殿で、無料鑑定会を実施
致しました。写経剃髮殿
は写経の実践により災難
を防ぎ、福を招くと同時
に亡き人々の祈りの実践

行であり、ご供養の修行
の場です。剃髮とは自分
の髪を一本切る事で佛弟
子となり、功德を授かれ
るように祈る所です。
お陰様で鑑定会には、多
くのお客様に足を運んで
いただき盛会の内に終了
した旨を伺いました。有
宵会の会員としてこのよ
うな貴重なご開帳にあたり、
奉仕鑑定会のご縁を
いただき嬉しく思ってお
ります。スリランカの皆
様のご幸福と、岩槻大師
様の益々のご発展を、お
祈り申し上げます。

吉田侑加
NPO通信

合掌

賛助金として左記の方々
からご寄附を戴きました。
有難うございました。
（敬称略・順不同）
稲葉行哉・今中陽子・牧
野有峰・菅原有恒・野路
さくら・ペーラモンテ・
小松輝子・匿名（一名）・
堀内憲子・河野有泉・福
田有宵・伊藤璃香・若林
シマ

出演者（三十二名）
鑑定人数五二五名
志納金二一五、二四七円

事務局だより

今回の例会

日時 十一月三十日（土）
午後一時十五分より
場所「松戸商工会館別館」
（終了後懇親会を予定）
講演
「卒中発症後の体験」
運命観について

日本占術協会前群馬支部長
仁科玄州先生（予定）
有宵会研修旅行
期日 十一月五日（火）六
日（水）

行先 陸奥古社寺巡り
宿泊 秋保温泉「佐勘」
費用 三万五千元
集合 JR上野駅（公園口・
駐車場）朝食の用意あり
晩秋の陸奥の古社寺を巡り、
本年に受けた邪氣と障りを
お祓いし、心の安らぎを求
めに参ります。

*日本占術協会第二十五
回シンポジウム開催
（推命・算命など）
十月十五日（日）北ト
ピア）王子駅下車
参加自由・有料です。
七月の例会には六十八名
の方が参加されました。
事務局 伊藤璃香